

研究プロジェクト活動報告

1. 文理融合の食文化研究

- ①趣旨：現在、世界中で「食」に対する関心が高まりつつあり、日本においても様々な角度から「食」の諸問題が議論されている。これらの議論の背景には、西洋科学文明の行き詰まりがある。「食」の現代的課題を解決するためには、世界的な視点で日本の「食」の問題を考えていく必要がある。また、数量化に象徴される栄養科学の視点からだけではなく、人文学からの視点を含めた複合的な文理融合の視点によって、「食」の問題に対処することが肝要である。本研究では、本学で研究・教育が蓄積されてきた国際日本学分野と食物栄養学分野の研究者・院生が合同で、これらの課題解決のために共同研究を行う。
- ②プロジェクト担当者（センター研究委員）：古瀬奈津子（比較社会文化学）
- ③学内研究員（本学の教員など）：
森山新（比較社会文化学）
高崎みどり（比較社会文化学）
香西みどり（ライフサイエンス）
新井由紀夫（比較社会文化学）
村田容常（ライフサイエンス）
頼住光子（比較社会文化学）
神田由築（比較社会文化学）
宮内貴久（比較社会文化学）
野田有紀子（リサーチフェロー）
- ④協力員（学生など）：
島村裕子（本学大学院人間文化創成科学研究科研究員）
斎藤真希（本学博士後期課程比較社会文化学専攻）
矢田純子（本学博士後期課程比較社会文化学専攻）

百瀬みのり（本学博士後期課程比較社会文化学専攻）

矢越葉子（本学博士後期課程国際日本学専攻）

武内佳代（本学博士後期課程国際日本学専攻）

石井佐智子（本学博士後期課程比較社会文化学専攻）

⑤客員研究員（学外の大学教員など）：

シャルロット・フォン・ヴェアシュア（フランス国立高等研究院）

⑥活動経過：

I. 第10回国際日本学シンポジウム（平成20年7月5日（土））

セッション1「人類・食・文化」

司会：村田容常（本学教員）

古瀬奈津子（本学教員）

【講演】

フランソワーズ・サバン（日仏会館）

「食物、人間、そして神聖なるもの」（翻訳：中村俊直・本学教員）

マクシム・シュワルツ（パスツール研究所）

「農業害虫の生物的防除—パスツールから遺伝子組み換え作物まで—」（翻訳：島村裕子・本学大学院研究員）

【研究発表】

シャルロット・フォン・ヴェアシュア（フランス国立高等研究院）

「古代日本人は米をどれくらい食べていたか？」

香西みどり（本学教員）

「日本の米と食文化」

増田昭子（立教大学）

「雑穀の社会史」

【パネルディスカッション】

その他：6月11日（水）、6月25日（水）、7月2日（水）に事前研究会を行い、6月18日（水）、7月1日（火）に煎り酒についての打ち合わせと調理実習を行った。

II. 第3回国際日本学コンソーシアム（平成20年12月15日（月）～17日（水））

「食・もてなし・家族」

【日本語学会】

（12月15日（月）12：30～16：30）

担当：高崎みどり・百瀬みのり

岩崎典子（英国・ロンドン大学SOAS）講演：

「タマネギ1個とセロリ1本—食べ物名詞の捉え方の日英比較と英語・日本語教育への示唆」

具軟和（本学大学院生）研究発表：

「広告と食—日・韓のコマーシャルからみることばと食」

【歴史学会】

（12月15日（月）15：30～19：00）

担当：古瀬奈津子・矢越葉子

ヤン・シーコラ（チェコ・カレル大学）講演：

「国民性を反映する食の文化及びその変遷」

今給黎佳菜（本学大学院生）研究発表：

「19世紀におけるジャポニズムと日本製洋食器」

“Japonisme in the 19th Century and Western Tableware Made in Japan”

古瀬奈津子（本学教員）講演：

「芋粥の話」

野田有紀子（本学リサーチフェロー）研究発表：

「平安貴族の招待状—書状にみる交遊空間—」

【日本文学部会】

（12月16日（火）13：00～16：50）

担当：菅聡子・武内佳代

范淑文（台湾・国立台湾大学）講演：

「漱石の作品における食・もてなし—『虞美人草』を例として—」

森暁子（本学大学院生）研究発表：

「北条氏繁の寝茶の湯—戦国武将の生活の一齣」

アンナ・クジヴァーンコヴァー（チェコ・カレル大学大学院生）研究発表：

「マグダレナ・ドブロミラレットゴヴァー：チェコ料理及び文学への貢献」

【日本思想部会】

（12月17日（水）9：30～12：10）

担当：頼住光子・斎藤真希

頼住光子（本学教員）講演：

「仏教における「食」

高島元洋（本学教員）講演：

「神道における「食」

2. グローバル時代の総合的日本語教育

Holistic Education of Japanese Language in the Global Era

- ①趣 旨：グローバル時代にふさわしい総合的な日本語教育を模索する。日本学との学際的連携や文化理解教育のあり方、IT利用などについても考察する。
- ②プロジェクト担当者（センター研究委員）：森山新（比較社会文化学）
- ③学内研究員（本学の教員など）：佐々木泰子（比較社会文化学）
- ④協力員（学生など）：ナイダン・バヤルマー（モンゴル・モンゴル教育大学講師、本学博士後期課程比較社会文化学専攻）
- ⑤客員研究員（学外の大学教員など）：
 - 李徳奉（韓国・同徳女子大学校）
 - 徐一平（中国・北京外国語大学北京日本学研究センター）
 - 土屋浩美（米国・ヴァッサー大学）
 - 王冲（中国・大連理工大学）
 - チュオン・トゥイ・ラン（ベトナム・ハノイ大学）
 - 小浦方理恵（タイ・チェンマイ大学）

河先俊子（フェリス女学院大学）
平畑奈美（東京大学）

⑥活動経過：

12月17日 国際日本学コンソーシアム日本語教育学会

土屋浩美（アメリカ・ヴァッサー大学）講演：
「ヴァッサー大学日本語夏期研修：交流を通じた異文化理解」

森山新（本学教員）講演：
「文化を取り入れた総合的日本語教育のための新たなとりくみ－国際交流型授業と国際遠隔協働授業－」

李徳奉（韓国・同徳女子大学校）講演：
「「交流法」による多文化理解の効果と限界について」

佐野香織（アメリカ・ヴァッサー大学、本学大学院生）研究発表：

「web掲示板とTV会議システムを利用した授業実践－「言い訳」に注目して－」

小林智香子（本学大学院生）研究発表：
「国際遠隔協働授業は文化を取り入れた総合的日本語教育として有効か－JFL韓国人日本語学習者の授業評価を中心に－」

西岡麻衣子（韓国・同徳女子大学校大学院生研究発表）研究発表：

「多文化理解を目指した交流型学習の意義と今後の方向性－日韓大学生国際交流セミナーを通して－」

3. 東アジアにおける比較儀礼史の研究

①趣旨：中国の例が周辺諸国へどのように受容されていったのかを、日本を中心に究明する。その際中国との比較の視点を重視する。

②プロジェクト担当者（センター研究委員）：古瀬奈津子（比較社会文化学）

③学内研究員（本学の教員など）：野田有紀子（本学リサーチフェロー）

④協力員（学生など）：

東海林亜矢子（本学博士後期課程国際日本学専攻）

矢越葉子（本学博士後期課程国際日本学専攻）

重田香澄（本学博士後期課程国際日本学専攻）

⑤客員研究員（学外の大学教員など）：

金子修一（國學院大學）

妹尾達彦（中央大学）

石見清裕（早稲田大学）

稲田奈津子（東京大学史料編纂所）

丁 珍娥（韓国・韓日歴史共同研究委員会専門委員）

⑥活動経過：

I. 中国史学会第9回国際学術大会「通過法律看中国歴史」

（平成20年9月25日（木）～28日（日）、於韓国・国立忠北大学校）

基調報告：古瀬奈津子「宮繕令からみた宋令と唐令」

研究発表：野田有紀子「唐代後宮における礼と法－『大唐開元礼』『大唐元陵儀注』を中心に－」

参加者：丁珍娥

II. パリ第7大学との共同ゼミ

「パリ・ディドロ（第7）大学とお茶の水女子大学：日本学の新たな構築の試みII」

（平成21年1月9日（金）、於パリ第7大学）

研究発表：古瀬奈津子「女房としての紫式部」

研究発表：重田香澄「撰関期における政務と勘文（調査報告）－『小右記』にみる改元定を例として－」

III. フランス国立図書館東洋文書部門における敦煌文書の調査と学芸員との意見交換

（平成21年1月12日（月）、於フランス国立図書館）

古瀬奈津子、野田有紀子、矢越葉子、ヴェロニク・ペランジェ、ナタリー・モネ

敦煌文書に含まれる書儀（書状の文例集、礼についても記載されている）などを調査し、学芸員のベランジェ氏、モネ氏と意見交換を行った。詳細は活動報告書を参照。

4. 欧米における日本学 ―日本美術研究を中心に― Japanese studies in Europe and United States -Focus on Japanese Art History-

- ①趣旨：欧米における日本美術研究に関する方法論の分析的考察を行う。欧米の研究者あるいは芸術家がどのように日本の美術を解釈してきたかを明らかにしながら、彼らの残した言説（内容、文化的背景、方法論）を分析し、日本国内での研究と比較しながら検討し、その特質を捉える。
- ②プロジェクト担当者（センター研究委員）：ロール・シュワルツ=アレナレス（比較社会文化学）
- ③学内研究員（本学の教員など）：秋山光文（比較社会文化学）
- ④客員研究員（学外の大学教員など）：
馬淵明子（日本女子大学）
山梨絵美子（東京文化財研究所）
クリストフ・マルケ（フランス国立極東学院 東京支部・フランス国立東洋言語文化研究所）
ジャン=ノエル・ロベール（フランス国立高等研究院）
ニコラ・フィエヴェ（フランス国立科学研究庁（CNRS）中国日本チベット文明研究センター）
ヴェロニク・ベランジェ（フランス国立図書館東洋写本部）
- ⑤活動経過：
1) ロール・シュワルツ=アレナレス “Le Bois sacré du Nirvâna -Essai d'interprétation d'un chef-d'oeuvre de la peinture bouddhique japonaise”（「涅槃の聖なる森―日本仏教絵

画の傑作への試論―）*La Question de l'art en Asie*, Ed.Presses de l'Université Paris Sorbonne (PUPS), Collection Asie, 2008

2) ガストン・ミジョンとルーヴル美術館の中の日本―知と技の継承、融合、変革― お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター研究年報 第5号（2009年）

3) 2007年7月6日

お茶の水女子大学 比較日本学教育研究センター 第10回国際日本学シンポジウム セッションII

テーマ：源氏物語の千年―日本と欧米における源氏絵の旅―

企画・コーディネイト・司会：ロール・シュワルツ=アレナレス

講演者：

1. 清水婦久子氏（帝塚山大学）
源氏物語の絵画性
2. 原山絵美子氏（本学大学院生）
『源氏物語』竹河巻の絵画化―『あさきゆめみし』を出発点として―
3. エステル・レジェリー=ボエール氏（フランス国立東洋言語文化研究院）
フランスにおける源氏物語 ―テキストへの視線と絵画への視線―
4. 渡辺雅子氏（メトロポリタン美術館アジア部門）
米国における源氏物語イメージの美術史的研究活動

全体パネルディスカッション

司会：平野由紀子氏（本学教員）

4) 研究調査：ロール・シュワルツ=アレナレス

研究課題：[ガストン・ミジョン、ルーヴル美術館初の日本美術コレクション学芸員]

科学研究費補助金：平成19年度科学研究費補助金（基盤C）

研究代表者：ロール・シュワルツ=アレナレス

用務先：ギメ美術館附属図書館（フランス）、
ルーヴル美術館学芸員図書館（フランス）

主張日程：平成20年8月1日～平成20年8月22日

用務の概要と事業の関連について：

国立装飾美術館附属図書館（パリ）、ルーヴル美術館学芸員図書館を訪問するガストン・ミジョンに関する資料を集め複写した。

5) 研究調査：ロール・シュワルツ=アレナレス

研究課題：率天往生の思想とそのかたち

研究種類：平成20年度科学研究費補助金（基盤B）

研究代表者：泉武夫（東北大学）

用務先 主張日程：敦煌 甘肅省（中国）平成20年11月26日～平成20年12月3日

6) 2009年1月9日～12日 パリ第7大学共同ゼミ（日本学）／フランス国立図書館調査

責任者：古瀬奈津子、中村俊直

コーディネーター：ロール・シュワルツ=アレナレス（本学）

Claire Brisset（フランス・パリ第7大学）

Véronique Béanger（フランス国立図書館 東洋部門）

1月9日 パリ第7大学共同ゼミ共同ゼミ（文学・歴史・美術史・民俗学）

1月12日 フランス国立図書館 敦煌文書調査

5. 哲学、倫理、宗教、科学思想に関する比較思想的研究

A comparative study of philosophy, ethics, religion and scientific thought

- ①趣旨：日本人研究者とフランス人研究者が協力して、日本と西洋との伝統思想や現代哲学の比較研究を行うことによって、日本思想、西洋思想の特殊性、独自性を浮き彫りにすると同時

に、共通点についても理解をふかめる。さらに、人間の存在構造、認識構造の普遍性についても明らかにする。本研究プロジェクトは、フランス・クレルモンフェランのブレーズ・パスカル大学、哲学・合理性研究センターとの共同プロジェクトとなる。

- ②プロジェクト担当者（センター研究委員）：

頼住光子（比較社会文化学）

ロール・シュワルツ=アレナレス（比較社会文化学）

- ③学内研究員（本学の教員など）：

高島元洋（比較社会文化学）

三浦謙（比較社会文化学）

大久保紀子（非常勤講師）

- ④協力員（学生など）：

小濱聖子（本学博士後期課程国際日本学専攻）

石崎恵子（本学博士後期課程国際日本学専攻）

遠藤千晶（本学博士後期課程国際日本学専攻）

木元麻里（本学博士後期課程単位取得退学）

熊本幸子（本学博士後期課程単位取得退学）

- ⑤客員研究員（学外の大学教員など）：

イブ・シュワルツ（フランス・エクス マルセ大学）

ローレン・ジャフロ（フランス・ブレーズ パスカル大学）

エマニュエル・カタン（フランス・ブレーズ パスカル大学）

アラン・プティ（フランス・ブレーズ パスカル大学）

エリザベト・シュワルツ（フランス・ブレーズ パスカル大学）

徐翔生（台湾・国立政治大学）

吉田杉子（國學院大学）

青柳優子（杏林大学付属看護学校）

- ⑥活動経過：2007年度は徐翔生先生（台湾・国立

政治大学)、2008年度はアニック・ホリウチ先生(フランス・パリ第7大学)による講演会を開催した。また、フランスのブレーズ・パスカル大学との交流としては、プロジェクト参加者がそれぞれに比較思想的観点から研究をすすめるその成果を発表すると同時に、今後の具体的な交流活動について打ち合わせを行った。また、本年度ブレーズ・パスカル大学から本学に留学する学生の共同指導について検討し、それを通じて共同教育研究体制を強化した。台湾の徐翔生先生とは2008年12月に政治大学と本学の日本思想・文化研究者と大学院生によるジョイントゼミを共同開催した。また、開催に関連して打ち合わせを重ね、それを通じて、今後の教育研究面における交流の枠組みを整備強化した。

講演会

比較日本学研究センター2007年度第3回公開講演会(2008年2月15日 於本学文教1号館803号室)

企画者:高島元洋、頼住光子

講演者:徐翔生先生(台湾・国立政治大学)

テーマ:「武士道と儒教」

司会:高島元洋、頼住光子

比較日本学教育研究センター2008年度第1回公開講演会(2008年5月29日 於本学文教1号館第1会議室)

企画者:ロール・シュワルツ=アレナレス

講演者:堀内アニック・美都(フランス・パリ第7大学)

テーマ:ロシア関係資料を通して見る近世日本の知のネットワーク~「魯西亜(ロシア)」関連の言説を通して~

司会:ロール・シュワルツ=アレナレス、頼住光子

ジョイントゼミ

2008年12月12日~15日(於台湾・国立政治大学)

企画者:高島元洋・徐翔生・頼住光子

講演

・高島元洋「日本儒教の特徴」(本学教員)

・三浦謙「日本が受容した西洋科学—西洋科学の変遷と江戸時代におけるその受容について」(本学教員)

・頼住光子「道元の思想」(本学教員)

・小林幸夫「近世後期江戸における知識人社会と考証研究」(台湾・国立政治大学)

・吉田妙子「語構成から覗く日本の食文化」(台湾・国立政治大学)

・徐翔生「日本神道の源流を探る—『古事記』に見られる中国の道教思想」(台湾・国立政治大学)

ジョイントゼミ発表

・斎藤真希「親鸞の他力念仏」(本学大学院生)

・徳重公美「荻生徂徠における徳について—一仁と孝弟忠信」(本学大学院生)

・鈴木朋子「清沢満之における儒教徳目の解釈とその位置づけ」(本学大学院生)

・徐曉筠「江戸期新興商人「三井家」の家存続の考え方—明清朝期の徽商との比較—」(台湾・国立政治大学大学院生)

・王意婷「初期徳富蘇峰の「自由」論—『自由、道德、及儒教主義』における—」(台湾・国立政治大学大学院生)

刊行物等

頼住光子

・「仏教における心の教育」(尾田幸雄監修『日本人の心の教育』官公庁文献研究会、2008年5月2日 pp.137-177)

・「親鸞と道元—その悪の理解をめぐる—」(『アンジャリ』第16号親鸞仏教センター、2008年11月)

・「道元と親鸞の「仏性」観をめぐる比較思想的探求」(『峰島旭雄先生傘寿記念論文集』掲載予定、近刊)

・「「悪」の宗教的意義に関する一考察—親鸞と道元をめぐる比較思想的探求」(お茶の水女子大学『人文科学紀要』第5巻掲載予定、2009年3月刊行予定)

- ・「[空]の真理 道元の「開悟成道」一師・如浄との出会い」(井上ひさし『道元の冒険』上演パンフレット解説10~11頁。2008年7月7日~28日 bunkamura シアターコクーン、東京公演。2008年8月3日~10日シアターBRAVA!、大阪公演。

Laure SCHWARTZ=ARENALES ロール・シュワ
ルツ=Aレナレス

- ・“Le Bois sacré du Nirvâna -Essai d'interprétation d'un chef-d'oeuvre de la peinture bouddhique japonaise”、「涅槃の聖なる森—日本仏教絵画の傑作への試論—」2008 in *La Question de l'art en Asie*, Ed.Presses de l'Université Paris Sorbonne (PUPS), Collection Asie, pp. 265-283
- ・「平安時代の「涅槃図」」(青松寺 青松講座)
- ・「研究調査：率天往生の思想とのかたち」(平成19年度科学研究費補助金 (基盤B) 研究代表者：東北大学文学研究科教授 泉武夫、敦煌甘肅省(中国)、2008年8月26日~2008年9月3日)

高島元洋

- ・Buddha [仏 butu: existence] (The perceptible world)・Buddha-nature [仏性 bussho: essence] (The imperceptible world) and Buddha in sitting meditation [仏向上bukkojo] (さとり satori: The enlightenment) – On the spiritual constitution of Dogen – (『倫理学年報』57 pp. 8-9、2008年3月)
- ・「[思想史]とは何か—「日本倫理思想史」に関する方法論的反省」(『日本史学年次別論文集 2005 (平成17)年』学術文献刊行会・朋文出版pp. 494-487、2008年5月)
- ・「日本儒教の特徴」(『お茶の水女子大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」活動報告書 学内教育事業編』掲載予定)

大久保紀子

- ・「古代社会における心の教育」、尾田幸雄監修

『日本人の心の教育』(官公庁資料編纂会、2008年) p.59-p.91。

- ・「山崎闇齋学派の儒者の多様性について—稲葉黙齋の著作を手がかりに—」、『人文科学研究』第5巻 (お茶の水女子大学、2009年3月刊行予定)

小濱聖子

- ・「沈黙とことばについて—石原吉郎の場合—」(『比較思想研究』第35号別冊掲載予定、比較思想学会、2009年3月刊行予定)
- ・「白隠の戒律観についての一考察」(大正大学哲学年誌論文集 (題未定) 掲載予定、2009年3月刊行予定)
- ・「石原吉郎のナルシズムの所在」(未発表)
- ・「沈黙とことばについて—石原吉郎の場合—」(比較思想学会研究例会 [東京地区2008年度第1回] 2008年4月26日、大正大学)

遠藤千晶

- ・博士論文「カント哲学における〈可想的なもの〉の研究」(2008年10月31日提出、審査中)

Elisabeth SCHWARTZ エリザベト・シュワルツ

- ・*Les figures wittgensteiniennes du rationalisme :un « scepticisme logique » ? In Wittgenstein. Etat des lieux*, Elisabeth Rigal éditeur, Paris, Vrin 2008 2d trimestre, pp.136-168
- ・*Introduction, édition critique et notes du Cours de Sicard à l'Ecole Normale de l'An III, In Leçons d'Analyse de l'entendement, art de la parole, littérature, morale, collection de réédition des Leçons de l' Ecole Normale de l'an III, J.Dhombres et B.Didier ed., pp.161-520.*
- ・*Structures et système dans l'idéalisme kantien, in Numéro spécial de la Revue brésilienne Dos Pontos, Sao Paulo.* (traduction brésilienne dans le Recueil *Système, structures et subjectivité.*)
- ・Préparation en collaboration avec C.Coulombeau-Morel des Actes du *Congrès international Esthétique et Logique*, Clermont, Octobre 2007,

avec la participation du Professeur Sato. (Tokyo) et de collègues brésiliens, allemands et italien)

Emmanuel CATTIN エマニュエル・カタン

- « Le désir de savoir », in « Les Cahiers d'Histoire de la philosophie », Kant, dirigé par J.-M. Vaysse, Paris, éd. Cerf, 2008 (contribution pp. 235-247).
- « Le philosophe et l'expérience », paru dans *Hegel. Bicentenaire de la Phénoménologie de l'esprit*, recueil des actes du congrès de la Société française de philosophie des 12 et 13 octobre 2006, dirigé par Bernard Bourgeois, Paris, Librairie Vrin (contribution, p. 158-169).
- “Le logos du non-être”, in : *Hegel et la philosophie de la nature*, sous la dir. de Ch. Bouton et J.-L. Vieillard-Baron, Paris, Vrin, 2009 (contribution, pp. 47-61).
- « Fichte néoplatonicien », à par. dans un vol. collectif dirigé par Jean-Christophe Goddard sur la W.-L. 1804, 2009 (contribution environ 15 p.).

Laurent Jaffro ローレン・ジャフロ

- « Which Platonism for Which Modernity ? Shaftesbury's Socratic 'Sea-Cards', in *Platonism at the Origins of Modernity : Studies on Platonism and Early Modern Philosophy*, edited by S. Hutton et D. Hedley, International Archives in the History of Ideas, Springer, 2008, pp. 255-267
- « Shaftesbury on the 'Natural Secretion' and Philosophical Personae », *Intellectual History Review*, 18, 3 (2008), pp. 349-359
- « Emotions et jugement moral de Shaftesbury à Hume », in *Les émotions*, edited by S. Roux, Paris, Vrin, 2008, pp. 135-159.

Alain Petit (アラン・プティ)

- Participation au programme “Johannisme” (Anr/Phier) printemps 2008
- Participation au Programme “néoplatonisme médiéval” (Anr/Phier) printemps 2008
- rédaction en cours d'un ouvrage sur Pythagore.

Yves Schwartz イブ・シュワルツ

- “Un bref aperçu de l'histoire culturelle du concept d'activé”, in la Revue électronique *activés*, 2007, volume 4, n°2 (Texte en français et en anglais à partir de la communication faite au colloque de 2006 à l'Univ. Ochanomizu).
- Conférence à l'Association Franco-Italienne sur la Philosophie française Contemporaine (ENS Ulm), 21/11/08.
- Participation au Comité des Oeuvres Complètes de G.Canguilhem (Éditions Vrin, Paris), responsable du premier Volume.

徐翔生

- 「死生観から見る武士道と儒教の相違」(『政治大学外国語文研究』第8号、台湾国立政治大学出版、2008年6月、pp.47~63)
- 「神道と日本社会」(台湾世界宗教博物館主催、講演時間：2008年11月1日、場所：台北「世界宗教博物館」)

吉田杉子

- アダム・スミスの道徳論の独自性 『比較思想研究』第35巻別冊2009年3月発行予定
- 「アダム・スミスの道徳論の独自性 —三木清の構想力についての概念との比較考察をてがかりとして—」(比較思想学会研究例会 [東京地区・年度第3回] 2008年10月18日)

青柳優子

- 「新渡戸稲造の今日的意義—異文化理解と東西「融合」をめざして—」(『イギリス理想主義研究年報』第5号 掲載予定)
- 「矢内原忠雄と教育」(日本宗教学会第67回学術大会 2008.9)
- 「矢内原忠雄における教育と平和」(日本道徳教育学会第72回秋季大会 2008.11)
- 「新渡戸稲造の今日的意義—異文化理解と東西「融合」をめざして—」(イギリス理想主義研究会2008秋季関東大会 2008.11)

6. 近世日本港町の社会・文化構造

- ①趣旨：日本近世の港町は、ヒト・モノや情報が交流する拠点として、ひとつの都市類型を進化させてきた。本プロジェクトでは、具体的な諸社会集団から見た、港町独自の社会・文化構造を明らかにしながら、近世都市の特質を考察することを意図している。
- ②プロジェクト担当者（センター研究員）：神田由築（比較社会文化学）
- ③学内協力員（学生など）：矢田純子（本学博士後期課程比較社会文化学専攻）
- ④客員研究員（学外の大学教員など）：
森下徹（山口大学）
後藤雅知（千葉大学）
町田哲（鳴門教育大学）
- ⑤活動経過：
6月29日 第1回研究会（於本学）
9月6日 第2回研究会（於大阪市立大学）
12月20日 来年度シンポジウム打合せ（於立教大学）
12月21日 鞆の浦にて調査（於鞆の浦歴史民俗資料館）

7. 近現代日本におけるフランス文化の影響—文学、思想、芸術の領域において— Influence of French culture on modern Japanese literature, thought and arts

- ①趣旨：明治期以降において、日本の文学者、思想家、芸術家たちがどのようにフランスの文化（文学、思想、芸術など）から刺激を受け、さらに新たな自己の作品創造や思索の糧としたのかを考察する。
- ②研究委員（センター研究委員）：中村俊直（比較社会文化学）
- ③学内研究員（本学の教員など）：
中村弓子（比較社会文化学）

村田真弓（比較社会文化学）

④協力員（学生など）：

西岡亜紀（本学研究員）

桂川友喜名（本学博士後期課程比較社会文化学専攻）

⑤客員研究員（学外の大学教員など）：

有田英也（成城大学）

岩切正一郎（国際基督教大学）

本間邦雄（駿河台大学）

⑥活動経過

本プロジェクト参加メンバーの今年度の業績

中村俊直

フランソワーズ・サバン氏講演「食物、人間、そして神聖なるもの」の翻訳（2008年7月第10回国際日本学シンポジウム「人類・食・文化」）

岩切正一郎

アルベール・カミュ作『カリギュラ』の翻訳（早川書房、2008年9月）

本間邦雄

『リオータル哲学の地平』（書肆心水、2009年1月刊行予定）

西岡亜紀

『福永武彦論—「純粹記憶」の生成とボードレール』、東信堂、2008年10月

「『死の島』の視点とアンドレ・ジッド—福永武彦における『贖金つかい』受容の一考察—」、『比較文学』第51巻、2008年度（2009年3月刊）掲載予定

「所謂〈人生の階段図〉についての一考察—図の変容を中心に—」『絵解き研究』第22号、2009年3月（刊行予定）

「福永武彦『死の島』の視点とアンドレ・ジッド」（2008年6月22日 日本比較文学界創立60周年記念・第70回全国大会にて口頭発表〈於大妻女子大学〉）

8. 挿絵研究会

- ①趣旨：江戸時代になって開花した出版文化の中で、小説に付されている挿絵に関する研究を行う。どのような場面を挿絵化するか、という点は、文学研究では重要であるが、それだけではなく、挿絵の構図、配置されている人物の衣服及びその文様・髪型、家屋、道具類、背景となる植物に至るまで理解し、その挿絵を読み解く。
- ②プロジェクト担当者（センター研究委員）：市古夏生（比較社会文化学）
- ③学内研究員（本学の教員など）：
吉村佳子（比較社会文化学）
藤川玲満（リサーチフェロー）
- ④協力員（学生など）：
山名順子（本学博士後期課程国際日本学専攻）
森暁子（本学博士後期課程国際日本学専攻）
黄韻如（本学博士後期課程国際日本学専攻）
趙賢廷（本学博士後期課程国際日本学専攻）
沖本清美（本学博士後期課程国際日本学専攻）
村松さやか（本学博士後期課程国際日本学専攻）
渡邊さやか（本学博士後期課程国際日本学専攻）
飯渕由美（本学博士後期課程比較社会文化学専攻）
武市香奈（本学博士前期課程人文学専攻）
- ⑤客員研究員（学外の大学教員など）：
ダニエル・ストリュープ（フランス・パリ第7大学）
- ⑥活動経過：前年度に引き続き、西鶴作の浮世草子『懐硯』の挿絵を最終章まで読み進めた。
- 第1回 5月28日『懐硯』巻4の5
発表者：森暁子
- 第2回 6月25日『懐硯』巻5の1

発表者：黄韻如

第3回 7月23日『懐硯』巻5の2

発表者：山名順子

第4回 10月8日『懐硯』巻5の3

発表者：武市香奈

第5回 11月26日『懐硯』巻5の4

発表者：飯渕由美

第6回 12月15日『懐硯』巻5の5

発表者：村松さやか

9. モノ研究から見た近世・近現代の生活文化史研究

- ①趣旨：近世・近現代における生活文化をモノを通して考察し、民具学・歴史学・生活学などの研究領域の再考、ならびに文化財行政について考察する。
- ②プロジェクト担当者（センター研究委員）：宮内貴久（比較社会文化学）
- ③学内研究員（本学の教員など）：神田由築（比較社会文化学）
- ④活動経過：隔月で研究会を行い、民具研究の現状と問題、今後の研究の可能性について議論した。12月6・7日に日本民具学会において、「今『民具』研究とは」をテーマにシンポジウムを開催した。
- <日本民具学会 詳細>
▽平成20年12月6日（土）
本学本館306号室大講義室
- 講演会
お茶の水女子大学名誉教授（美術史） 坂本満氏
「南蛮屏風をよむ」
- シンポジウム
「いま、なぜ『民具』研究か」
パネリスト：
加藤隆志氏（相模原市立博物館）
石垣悟氏（文化庁）
岡本信也氏（野外活動研究会代表）

コメンテーター：小島孝夫氏（成城大学）
印南敏秀氏（愛知大学）
司会：鈴木通大氏（神奈川県立歴史博物館）

▽平成20年12月7日(日)

○研究会

第1会場（本学本館209号室第6講義室）

○自由発表

板井英伸（沖縄）「奄美・沖縄の『和船』」
荻野裕子（奈良）「焼津カツオ漁師の奉納物」
檜村賢二（鳥取）「鳥取西部の綿栽培用具」
米村創（東京）「シナ布の生産・流通と利用に
みる民俗文化」
芝崎浩平（神奈川）「鉄製民具保存修復の考
え方」
神野善治（神奈川）「いわゆる香時計につい
て—時の民具を探る—」
内藤大海（東京）「王禎農書唐箕絵図の解説—
開放型先行説批判—」
渡辺一弘（東京）「千人針に見られる俗信の変
化について」
坪郷英彦（東京）「八王子まつり山車はどのよ
うに認識されているか」

第2会場（本学本館212号室第7講義室）

○課題発表「紙」

栗国恭子（沖縄）「沖縄の紙文化のあり様」
北村春香（東京）「日常の紙布—農山村で作ら
れた紙の着物—」
加藤紫識（東京）「包装紙にみる情報と民俗」
宮本八恵子（埼玉）「チラシ・DM等の資料化
—過性のメディア資料を研究資料化するた
めの—考察—」

10. 現代日本文学と〈reproduction〉の表象 —日米比較の視点から

The Representation of “Reproduction” in Contemporary Japanese Literature

①趣旨：現代日本文学にあらわれる「妊娠」「出

産」の表象について、日米比較の視点から分析・
考察し、現代日本社会における〈reproduction〉
の意味をさぐる。

②プロジェクト担当者（センター研究委員）：菅
聡子（比較社会文化学）

③客員研究員（学外の大学教員など）：

アマンダ.C.シーマン（日本学術振興会、米
国マサチューセッツ州立大学アムハースト
校）

④活動経過：現代の女性作家による作品にあらわ
れた「妊娠」「出産」の表象について、資料の
収集ならびに分析・考察を行った。その結果に
ついて、比較日本学教育センター主催で公開講
演会を開催した。学内外から院生・教員を含め
て多くの出席者を得、活発な討論が行われた。

公開講演会：Two for One—現代日本女性文学
におけるアイデンティティとしての妊娠

講師：アマンダ.C.シーマン

司会・コメンテーター：菅聡子

日時：2008年6月27日 17:00~19:00

於・本学文教育学部1号館1階大会議室